

エラック口腔ケア News

前号に引き続き認知症を発症したご利用者様・患者様の口腔ケアを特集します。今回は認知症と入れ歯の関係について解説をいたします。

認知症と入れ歯

臨床家の経験として、正常な入れ歯使用者や残存歯の多い高齢者は認知症が少ない、もしくは軽度である、あるいは何らかの理由で入れ歯の使用を中止すると、精神機能の低下が見られる場合があると言われています。つまり、入れ歯は咀嚼のためであると一般的に理解されていますが、認知症とも密接な関係があることがうかがえます。これ以外にも入れ歯には様々な機能・効用があります。



では入れ歯を使わないとどのような影響があるのでしょうか？

- ・食塊形成が困難となり、嚥下がしにくくなります。
- ・顎関節や口腔周囲筋の廃用性萎縮が進み、経口摂取への回復が困難となります。また摂食嚥下リハ実施の際も大きな妨げになります。ひいては栄養状態の悪化につながります。
- ・残存歯がある場合は、挺出（歯の浮き上がり）や傾斜が進み、新たな義歯の作成が困難となります。また対合する粘膜を傷つけたりする場合（咬傷）もあります。
- ・食いしぼりができないため、体位が安定せず転倒のリスクが増加する場合があります。
- ・発音が不明瞭になります。

以上の結果、精神、身体機能低下が進み、ますます義歯が使えなくなる悪循環につながります。経管栄養摂取者でも前述の理由から、入れ歯を装着したほうが良い場合があります。

認知症の方の入れ歯ケアの工夫

- ・入れ歯は、外して清掃
認知症のご利用者様の中には入れ歯を口腔内に装着したままで、歯磨きをしている場合があります。必ず取り外して清掃しましょう。
- ・入れ歯ケアの介助
入れ歯のケアが自立されている方でも、介助者は仕上げのケアを行きましょう。清掃のみならず義歯の破損や不具合を発見できる場合があります。
- ・口腔粘膜の清掃
入れ歯の汚れだけでなく、入れ歯が接している口腔粘膜（上顎、舌）も汚れていることが多いようです。口腔粘膜ケア用ブラシなどを用い口腔ケアを行きましょう。
- ・日中の入れ歯装着
生活リズムの確保のため、日中は入れ歯を装着し夜間は取り外し清掃、保管をしましょう。一日の「することリスト」に加えるのも良いでしょう。ただし主治医・歯科医より就寝時の入れ歯装着を指示されている場合はそれに従ってください。
- ・誤飲の予防
保管中の入れ歯洗浄剤をラムネ菓子などと間違え異食したり、洗浄中の入れ歯洗浄剤を誤飲したりする場合があります。保管場所に注意しましょう。



口腔粘膜ケア用ブラシ
エラック510S/ES

口腔ケアは決して難しいものではありません。歯科専門職と連携して毎日楽しく習慣づけをしましょう。